

熊本で恐怖の震度7が起きてしまった。震度7を東日本大震災で体験したが、余りに大きく激しい揺れの中で、私はこの世の最後かと思った。それほど震度7は強烈な体験だった。

加えて今回は断層の大きなずれにより、その周辺でまだまだ頻発の様相で、被災人口は少ないものの、傷は大きく深く悲しい。

支援募金をすぐさまスタジアムで選手たちが実行し、過去最高額を集め、その後も選手たちが自主的にショッピングモールに出向いて募金を集めているが、サッカー選手達の呼びかけの威力とサッカーを愛する人達の熱い心は素晴らしい。サッカーの激しさは優しさにも十分通じている。

このパワー、感動と感激が生むパワーは、悲しみを乗り越えるパワーを生み出すのだ。感動を知っている人たちは、悲しみに立ち向かうことを知っている。

頑張ろう FC岐阜! 頑張ろうJリーグ! 熊本の元気のために!

| | |
|-----------------------|----------|
| 4月17日 松本戦での募金金額 | 799,400円 |
| 4月21日 ショッピングモールでの募金金額 | 334,655円 |

今後もホームゲーム等で募金活動を行っていきます。ご協力よろしくお願い致します。



写真: ©Kaz Photography/FC GIFU

PICK UP!

今月の選手インタビュー MF14 風間宏矢 選手



写真: ©Kaz Photography/FC GIFU

Q:昨シーズンは悔しい思いをしました。ここまでの今シーズンの戦いは昨年と比べてどうですか?

チームが勝っている要因は、全員がハードワークして守備から入ることで、失点が少なくなっていることだと思います。ただ失点しないだけでは勝てず、勝つためには攻撃にパワーを使う回数を増やしていかないと、得点は取れません。その点で、前線の選手が守備もしながら、攻撃でもしっかりハードワークできているのは、昨年と違うところだと思います。

Q:プレー中に気を付けていることは?

守備のポジショニングと長い距離走ることです。今のポジションは、必然的に長い距離を走らないといけないポジションということもありますが、守備で戻り、そこから攻撃に移ると一番きつい時に、そこで頑張るゴール前まで顔を出せば、どこかでチャンスが巡ってくると思います。

徳島戦ではそれが形になりゴールを決めることが出来ましたし、それを意識しプレーしています。

Q:これからどんなサッカー選手になりたいですか?

チームが苦しい時に得点が取れる選手になりたいですし、攻守においてハードワークのできる選手になりたいと思います。

Q:そのためにやっていることはありますか?

守備も攻撃もハードワークすることを自分で意識していますし、今やっていること以上のことができるようにと思いプレーをしています。とにかく目の前の1試合に集中して、そこで全力を出してプレーすること、それが今後につながっていくと思います。

Q:父である風間八宏監督(元日本代表、現・川崎フロンターレ監督)から影響を受けたことは?

監督としての父さんは、僕が川崎フロンターレに所属していた1年半しか知らないですが、他の人では絶対に出ない考えを持っていて、今でも自分の中でベースになることはその時に監督である父さんに言われたことなので、とても影響を受けた人です。

小さいころはよく遊んでもらっていて遊びの中から学ぶことはありましたが、高校時代はプレーを見て「ここをもう少しこうしたら」と言ってくれることはありましたが、「サッカー一家だから、熱血指導」という感じはなかったですね。

最後にメッセージを!

勝ち星を積み重ねることが岐阜全体を盛り上げる一番の要素だと思うので、そのためにとにかく個人としてもチームとしても一丸となり、勝ち点3をできるだけ多く積み上げたいと思います。もちろん上を目指していますが、そこばかりを見ずに、まずは目の前の1試合に集中し、難しい試合でも踏ん張れるようになりたいです。そしてまた来たいなと思ってもらえるようなプレーを個人としてもチームとしてもしたいと思います。